

後期が始まって1か月半が過ぎました。コロナ感染症の感染状況が落ち着いていることもあり、「参観日」や「修学旅行」だけでなく、「社会科見学」や「学区探検」など、学校の外に出て行って学習することができるようになりました。また、公民館の協力を得て行われる4年生の「防犯・防災教室」や3年生の「大館を知る会」、2年生の「大館かるた交流会」、1年生の「昔遊び交流会」など、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きして学習することもできるようになりました。中でも「昔遊び交流会」には、20名を超える地域の方が来校し、ビー玉やおはじき、お手玉、けん玉など大人にとっては懐かしく、子どもにとっては新しい遊びを教えてくださいました。真剣に、そして笑顔で遊びに夢中になっている1年生の姿が見られました。いつもの学習と異なり、実物を直接自分の目で見たり、耳で聞いたり、体験したりする活動は新鮮で楽しく、子どもたちの学びを深め、心を豊かにする効果があります。学校の教育活動に快く協力してくださる地域の方々や一緒に子どもたちの学びづくりに取り組んでくださる公民館の職員の皆様に、改めてお礼申し上げます。

子どもの心の成長について考える時、体を切り離すことはできません。体そのものもそうですが、生活の仕方も心の成長に大きな影響を与えます。十分な睡眠と規則正しい生活は心の安定をもたらします。また、身の回りを整理整頓することで心のやる気スイッチが入ることもありますし、反対に、心のもやもやが体に悪い影響を与えることもあります。心と体(生活)が強く結びついていることに異論はないと思います。

9月半ばから徐々に再開した朝マラソンの集大成として、11月5日に校内マラソン大会が行われました。力を振り絞ってゴールに駆け込んでくる姿からは、最後まで頑張り抜くぞという強い意志を感じ取ることができました。長い距離を走ることは順位に関係なく誰だって苦しいものです。走っている間ずっと、歩けば楽になるという誘惑との戦いが心の中で繰り広げられます。それでも誘惑に負けずに頑張ることができるのは、練習の積み重ねによる自信が支えとなるからです。弱い心に負けずに走り続けることで苦しさを乗り越えようとする強い心が育まれます。苦しくて歩いてしまっても、もう一度走り出す時にあきらめない心が育まれます。苦しさと向き合っている時こそ、成長のチャンスです。だからこそ、心の成長を支える日々の積み重ねを大切にしてほしいのです。目標に向かって積み重ねてきた努力が力の向上に結びついていることを実感した時に充実感や達成感を味わうことができ、次への意欲が高まるからです。

学習や生活、行事など様々な経験を通して、ゆっくりと心は成長します。心の成長には時間が必要です。子どもが自分の将来に夢を抱くことが勉強や生活を頑張る原動力となります。間もなく12月、寒い冬がそこまで来ています。たまには家族みんなで食卓を囲んで、学校のこと、興味をもっていること、将来のことなどゆっくりと話し合ってみませんか。



「啐啄」(そったく):「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音、 にいたのたより 「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。